

提言書

1. これまでの経緯

令和7年度公民連携会議では、「シマッチュ」それぞれが「自然・暮らし・文化」との「つながり」を実感できる取り組みを考える。」とのテーマで議論を行いました。

その背景として、島の人々が世界自然遺産・奄美を実感できていない、恩恵を感じられていない、ということがあります。

2. 検討内容

「シマッチュ」それぞれが「自然・暮らし・文化」との「つながり」を実感できる取り組みを検討するにあたり、世界自然遺産の保全と活用の観点から、つながりを実感できている状態のイメージや各分野で取り組めることについて議論いたしました。

※シマッチュとは「住民や来訪者、島外にいる出身者、奄美を好きな人等、奄美に関わる全ての人々」です。

【議論①】

「つながり」とは何か、「つながりを実感している状態」とは何かを考え、議論いたしました。

その結果、世界自然遺産になった奄美の自然の「良さを知っている状態」とその自然と共生してきた「環境文化を大事にすること」が重要であるとの結論になりました。

【実現のために必要なこと】

- ・奄美の良さを「共有する・伝える」「教える・学ぶ」「発信する」取り組み
- ・奄美の伝統や文化について「継承」「魅力を引き出す」「本物を見せ、体験する」取り組み

【議論②】

行政・学校・民間・地域等のそれぞれの主体がどのような取り組みをしていけば「良さを知っている状態」と「環境文化を大事にすること」が実現できるのか議論いたしました。

その結果、各々の主体がつながり、文章化が可能な形式的な知識である「形式知」と、地域や奄美の人々、個人の中にある言葉では伝えづらい、DNAレベルで理解している知識である「暗黙知」を合わせた「知識」を共有・発信し、次世代に伝えていくことが重要であるとの結論になりました。

知識

形式知：文章化が可能な形式的な知識。

暗黙知：言葉では伝えづらい知識。文章化しにくいいため消えていきやすい。

【実現のために必要なこと】

- ・「暗黙知」拾い上げるために、様々なコミュニケーションから生まれる「つながり」により、何が「暗黙知」なのかを整理すること。
- ・整理された「暗黙知」をやがて文章化して、新たな「形式知」にすること。

【議論③】

「知識（形式知と暗黙知）」について「1. 保全する」「2. 伝える・交換する」「3. 相互作用により新たな知識を創造する」の3つのステップを繰り返すことで「世界自然遺産・奄美とのつながり」をより深く実感することができる。

3. 現在の課題

現在の課題点は、各主体が取り組んでいる内容やこれから取り組みたいと考えている内容があったとしても「他の主体とどのように連携をしていけばよいのか分からない」ということです。新たな取り組みを行うことに加え、先程述べた「知識の3ステップ」を繰り返すためにも、各主体が現在持っている「知識」や「知識を有する人材」をつなげていくことが必要だと考えます。

奄美の良さや自然・暮らし・文化を次世代に伝え、

- ① 各種の「つながり」が生まれること
- ② 「つながり」を感じる
- ③ 「つながり」が生まれるきっかけ作り

を実現するために以下の施策展開を検討していただきたく存じます。

提言 「シマッチュそれぞれが自然・暮らし・文化とのつながりを実感できる取り組み」を行うため、各主体をつなげる「知識共創の循環基盤(=プラットフォーム)」をつくる

【プラットフォーム名称案】

奄美の物語知循環プラットフォーム

【期待される効果】

- ・シマッチュと「知識（形式知や暗黙知）」や「それらの知識を有する人」たちが“つながる”ことで知識の3ステップが繰り返され、知識共創が実現する。
- ・「自然・暮らし・文化」を中心に各主体（行政・学校・民間・地域等）が行う取り組みや、世界自然遺産について「学ぶ側」と「伝える側」が“つながる”
- ・各地域ならではの暮らしや文化と次世代が“つながり”、受け継がれる。
- ・集落行事への参加を促すことで地域文化と人々が“つながる”。

【具体的な取り組み内容案】

- ・共有する・伝える：世界自然遺産による雇用数の増加や地域活性化の状況を数値化して伝える。
- ・教える・学ぶ：子どもたちが小さなうちから奄美の自然や奄美の世界自然遺産に触れることで、島を離れてからも島に誇りを持ち、自分の言葉で島を語れる人を育てる。
- ・発信する：漫画やライブ等、多くの人を楽しめるエンタメ性の高いイベントで情報発信を行うことで世界自然遺産を広める。
- ・継承する：各集落の「語り部」を活用し、地域の歴史や文化を伝える。
- ・魅力を引き出す：Uターン者を積極的に受け入れることで本土での知識・経験と奄美の地域文化の融合を図る。
- ・本物を見せ、体験する：人、集落、自然へと誘う（いざなう）モニュメントを含めたサイン計画（案内システム）の立案による交流活性化

今後の世界自然遺産を保全・活用する政策において本提言に基づいた施策が行われ、「シマッチュ」それぞれが「自然・暮らし・文化」との「つながり」を実感すること」が実現されることをご期待申し上げます。